

伝説によると、高僧である見仏上人(生没不明)は1104年に大島に居を定め、孤独な仏教の修行をしながら少なくとも12年間過ごした。他の功績の中でも、彼は法華経を60,000巻唱え、浮上と瞬間移動の力を得たと言われている。彼の伝説は、島の美しい景色(純粹な土地、すなわち極楽浄土に酷似していると言われる)と一緒に伝えられ、洞窟群と共に、その後ずっと訪問者を惹きつけてきた。人々は12世紀に雄島に墓石を建て、記念碑を彫刻し始めた。